

救急救命士による処置範囲が拡大します

「救急救命士の処置範囲に係る実証研究」のモデル事業が下記のとおり行われます。

この事業では、厚生労働省と消防庁から助言などを得て、医療機関、医師会及び消防署などの連携のもと、救急現場や救急車内等で救急救命士が行う処置の範囲が広がります。

対象市町村 水戸市、ひたちなか市、東海村、笠間市、那珂市、大洗町、茨城町、常陸太田市、常陸大宮市、大子町、城里町（水戸地区救急医療協議会を構成する11市町村）

拡大される処置範囲

- ◆低血糖性の意識障害の可能性がある患者に対して血糖測定を行い、低血糖が確認された場合にはブドウ糖溶液を投与します。
- ◆喘息治療用の吸入薬（吸入β刺激薬）を所持している患者が重症喘息発作を起こした場合に、その吸入薬を使用します。
- ◆血圧が低下し、心臓が停止する危険性があるショック状態の患者に点滴を行います。

実施期間 11月1日～平成25年1月31日

※実証研究に該当する処置は、新しい救急救命処置に関する所定の教育研修を修了した救急救命士が行います。

※上記の処置を施した場合には、病院までの搬送時間が若干延長するなどの影響があります。（なお、患者が今回拡大される救急救命士による処置を断った場合でも、直ちに搬送の準備に取り掛かりますのでご安心ください。）

問合せ 総務課 ☎029 - 288 - 3111(内線223)

俳句

洗ひても稲の匂ひの稲刈機

飯田 勇一

台風の後川幅広くせり

いそべきよ

岩超ゆる波の重たし花真菰

鯉淵寿美恵

水うまき国傷のなき梨届く

竹内 幸子

秋風鈴孫抱く事になれにけり

仲田まちゑ

秋高し富士山望むワイン丘

森 静江

曼珠沙華ドミノ倒しのやうに

寺門 孝子

蓮根掘り男女の区別つかぬなり

飯村 昭子

終い風呂ゆつたりと聞く虫の声

袴塚よし子

秋ざくら一人降り立つ無人駅

今瀬多代美

刈田風青鷺のるる昼下り

一杉 常子

今年米どっさり積んで蔵たる

瀬谷 博子

彼岸花刈田の畦に列なして

岩下 金司

青空のしずかにもどる刈田かな

田口 勝元

川柳

山間を真白にそめ咲き蕎麦の花

青木新三郎

近隣のニュースまかせろこの

富田 多蔵

カエル君前には行くなトラク

飯村 孝一

文芸しるさと

短歌

この夏は汗でTシャツがぬけずして着たるままにて何時しかかわく

山形 式妙

炎天下の被災地を訪へば一面のみどり野哀し街は何処に

大森 久子

天の川流るる果ては亡き母の黄泉の国なるか星はまたたく

青柳 京子

力水授け給ひと菜畑の日照り

杉山みちこ

鉢植ゑに水をかけつつ夫の声

所 美恵子

蝉の羽化せる瞬時を見よと

美恵子

手触るれば種子を飛ばせる草

渡辺千紗子

ありてこの夏を共に生きる思ひす

渡辺千紗子

お正月の縄用に干した藁うす緑色に干しあがりけり

鶴田 すが

コーヒーの香り漂う美術館絵手紙仲間尋ね癒さる

菌部 光子

看護士のやわらかな声やさしさが病気を治す薬に変わる

富田 欽子

穂ばらみし稲田を渡る風涼し

白鷺舞いて秋はそこまで

上空に「恐竜」めく雲広がりて

満月を呑むたちまちの間に

片見 和枝

東京へ娘は帰り行き独りの身

は芙蓉の花にこころ慰む

ちちろ鳴くぬばたまの夜は更け

ゆきて雨戸打つ風深みゆく

川上千代子

島 愛子

なよなよと儘なる萩に触れながら野立ての席にこころ和めり

多田志保子

亡き夫の好みし酒を供えたり

十月七日の命日の朝に

清められたる境内に響きくる

琴の音床し観月の夕べ

いっしかに秋の気配は近づけ

り風渡りゆき蝉の声もなし

この夏の異常な暑さに彼岸花

半月遅れて満開となれり

川原 清

